１／２０　校長講話　阪神・淡路大地震から３０年

今から３０年前の１９９５年1月１７日午前５時４６分に大きな地震が起きました。阪神・淡路大震災です。神戸市を中心とした阪神地域や震源に近い淡路島北部では、建物の倒壊や大規模な火災が相次ぎ、死者は 6434 人に達しました。

私はこの日のことを鮮明に覚えています。私は、教員になって２年目、４年生の担任の先生でした。この日私は、社会科の授業を多く区内の先生方に見ていただく日になっていました。東京は、地震の被害がなかったので研究授業は普通に行い無事終えました。

その日家に帰りテレビをつけると愕然としました。真っ暗な中燃え広がる炎、崩れたマンション、亀裂の入った道路、新幹線の線路も下り曲がっていました。私は、関西地方に数名の友人がいたのですぐに電話をしましたが、つながりません。後に友達に話を聞くと、寒さの中、家が崩壊するだけでなく、電気やガス、水道などが使えず、苦しい日々がつづいたと…

痛ましい話も聞きました。祖父と祖母そして両親と幼稚園の子がいる５人家族の家で起きた話です。その家は２世帯住宅で、１階の祖父母、２階に息子家族が住んでいたそうです。たまたま地震の前日、幼稚園の子が、おじいちゃんとおばあちゃん一緒に寝たいと言って１階で寝たそうです。翌日朝の地震で家は崩れて１階で寝ていた子は帰らぬ子になったと…。

地震は、いつ起こるか分らないから一番怖いものと昔から言われています。だから備えなければいけません。備えの一つとして避難訓練があります。２学期、皆さんにアンケートをとりました。その中に「避難訓練に真剣に参加している」の質問がありました。ほとんどの子が「しっかり取り組んでいる」と答えた一方、「取り組めていない」と答えた子もいました。私はとても残念に思っています。尊い生命自分で守れるのかと心配もしています。このままでよいのかとも思っています。

そんなことを思って３０年目の阪神・淡路大震災を迎えました。